

公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会(課題)

【利用者の確保】

○利用者の高齢化

- ・登録グループが高齢化で解散、活動休止（コロナの影響もある）。
- ・公共交通が不便、車がないと移動できないため、免許返納で参加できなくなった方もおられる。
- ・社会問題としては課題だが、公民館の利用を考えたとき、高齢者は今後も一定数維持すると予測されており、次の高齢者世代へスムーズに移行していけるのならば高齢化は大きな問題ではない。但し、今の高齢者との意識や興味に大きな違いが出てくれば対応は必要。

○利用の少ない層の取り込み

- ・男性の参加者が世代に関わらず少ない。
- ・夏休み親子講座などで小学生にはある程度できているが、中学、高校にはまだまだできていない。
- ・地域の人だけでなく、知らなかった人や世代を越えた人とも繋がっていく機会の創出が必要。
- ・子育て世代は行政サービスが受けられる、図書館が併設など付加的な要素がないと利用しない。
- ・講座によっては比較的若い世代や男性、子ども、親子も参加しているので、ニーズに合った講座を企画することが大事。
- ・行事やイベントだけでなく、学校の授業として利用するなど、普段の利用者を増やすことも大事。
- ・誰でも用がなくても訪れやすい環境づくりが必要。

○PR・広報不足

- ・ホームページや紙面などでPRは行っているが、参加のための最初の一步としては誘い合いが大事、誘い合えるような人間関係の構築ができているか。
- ・あたり前の文書ではなく、伝え方も大事。
- ・学ぶだけで終わらず、学んだことを外に発信する機会を創出し、新しい活動に繋げていく。

○高齢者のニーズにこたえる学習支援

- ・高齢者大学は、現在卒業制度が廃止されているが、ステップアップした専門的な講座も必要なのではないか。
- ・各館の講座内容に特性を持たせる。
- ・近隣市町の施設も使って学習するネットワークづくり。
- ・いなみの学園やうれしの学園とのすみわけも必要。
- ・1中学校区に1公民館という利点を生かし地元の方がいつでも健康で学べることも大事。

【利便性の向上】

- ・コミュニティバスが公民館にも止まるようにしてほしい。日吉校区の「ひよタク」のように乗用車で目的地まで送迎する例もある。
- ・STEAM教育の推進（ICT機器の導入、スマート図書館）
- ・リアルの学びとオンラインの学びをどう結び付けていくか。

【地域と学校の連携推進】

○地域

- ・自分の地域の公民館という意識が低い、住民主体という意識づくりが必要。
- ・公民館は地域の核と考えており、「地域づくり協議会」の活動拠点としたいが現状はできていない。
- ・地域の課題解決について、住民主体で関わっていく仕組みづくり。
- ・地域での活動と公民館活動の双方をうまくミックスする仕組みづくり。

○学校

- ・学校教育、家庭教育、社会教育を繋ぐ拠点としての役割を担い、人材育成にも結び付けていく。
- ・公民館での教育を学校教育に還元して、外国人や女性支援、障害者の生涯教育などに繋げていく仕組みづくり。
- ・STEAM ラボ（学校と公民館に設置）の活用で学校と公民館を繋いだ講座を開催。

【職員配置】

- ・公民館は館長1名、職員2名、オークタウンは館長、職員各1名で運営しているというのが現実。
- ・若い世代などの利用を進めるためには、夜間や休日の利用を推進していくことが考えられるが、職員配置上難しい面もある。（シルバーの利用、代休による平日の職員配置）
- ・人材育成、研修を行うなどの取り組みが必要。

【その他】

- ・「公民館」という名称自体が古い（ローマ字表記に変えるなど）。
- ・行政との連携の問題、予算不足。
- ・公民館に通うことの世界体が気になる、公民館はいなみの学園などに比べてイメージがあまり良くない、身近な分思い切ったことが出来ない。
- ・退職者など時間はあるけれど、自分がやりたいことがわからない人もいる。